

県内8月の牛乳の動き (農林省岡山統計調査事務所 9月22日発売)

1、牛乳の生産状況

8月の県下の牛乳生産量は3,267トン(17.4千石)で前年同月の117.6%を示し7月の前年比115.9%より僅かながら1.7%の伸びをみせた。

また本年1月～8月の生産状況では約28,382トン(151.3千石)で前年同期の125.0%となっている。

2、用途別牛乳消費量

一方8月の飲用向および加工向の消費量はそれぞれ1,876トン(10.0千石)238トン(1.3千石)で飲用向は最盛需要期の夏場を迎え前年同月の136.8%と4割近い大巾増で、加工用はこの飲用向の需要に

圧迫され、前年に比べ40.1%と逆に半分以下の減少を示している。

また1月～8月の消費状況をみると、前年に比べ飲用向では130.1%と約3割の増加に対し加工用は91.6%に減少した。

3、県外よりの移出入量の状況

8月の県外よりの生乳の移入量は約148トン(8千石)で前年同月の102.1%となり広島、香川、鳥取が主な県となっている。一方移出量は約1,000トン(5.3千石)で前年同月の165.6%と7割近い増加傾向となり、大阪、兵庫、広島、山口が主となっている。

日本養鶏協会創立10周年記念 養鶏講演会岡山市で開催

社団法人日本養鶏協会が昭和26年に創立されてから、今年が丁度10周年に当るので、同協会や、同中四国支部、岡山県共催で、この10月15日午前10時から岡山市巖井の備前興業株式会社講堂で中国ブロックの10周年記念講演会が開催されました。

この講演会には、県内外の養鶏農家、技術者などが開場前から続々と集まり、約200名が次のとおりの講演を終始熱心に受講し、質疑応答が行われましたが、最近の養鶏経営規模の拡大・合理化や、集団化に対する関心の高まっている折から聴衆に大きな感銘を与え、午後4時過ぎ盛会のうちに終了しました。

(演題及び講師)

1、我が国養鶏の現状と将来

(10時～11時)

社団法人日本養鶏協会会長 伊藤 帷吉氏

2、鶏の病気について

(11時～12時)

農林省兵庫種畜牧場業務課長 吉岡重治郎氏

3、ケージとバタリー養鶏の実際

(13時～16時)

神奈川中央養鶏農協組合長 彦坂 茂一氏

県酪連の乳牛北海道購買の状況

岡山県酪連では、去る9月、県下市町村・農協からの乳牛導入の希望を取りまとめ、同下旬48頭の導入(湯郷5、昭和(和気)9、佐伯10、中庄5、水島2、久代10、鴨方3、御津酪1、児島酪3)を完了しましたが、内訳は、妊婦牛26頭、仔牛22頭で、最高18万5千円、最低6万円、平均11万円で、この回のは雑種が多く、有畜農家創設用のものが主となっています。

さらに、最近の酪農熱からその後の導入依頼が100頭程度もあるので、この10月末から松田技師が本年

第3回目の北海道購買に出張することになっています。この計画では、現地での購買は11月20日まで、牛の岡山到着は11月10日から25日頃の予定ですが、県酪連では、北海道の乳牛相場について現在北海道へは各県からの購買申込みが殺到しており、総体に昨年に較べて1割高で、ことに妊婦牛は2割方高く、さらに引続いて上る模様なので妊婦牛の購買は難かしい。またこの傾向は今年から来年にかけて続き、来年秋が最高になるのではないかと云っています。